

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2001-354546
(P2001-354546A)

(43) 公開日 平成13年12月25日 (2001. 12. 25)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テーマコード* (参考)
A 6 1 K 7/48		A 6 1 K 7/48	4 C 0 8 3
7/00		7/00	J
			K
			N
7/02		7/02	Z
審査請求 有 請求項の数31 O L (全 11 頁) 最終頁に続く			

(21) 出願番号 特願2001-134608 (P2001-134608)

(22) 出願日 平成13年5月1日 (2001. 5. 1)

(31) 優先権主張番号 0 0 0 5 7 1 2

(32) 優先日 平成12年5月4日 (2000. 5. 4)

(33) 優先権主張国 フランス (F R)

(71) 出願人 391023932

ロレアル

LOREAL

フランス国パリ, リュ ロワイヤル 14

(72) 発明者 イザベル・アフリア

フランス・75003・パリ・リュ・パストゥ
レル・8

(74) 代理人 100064908

弁理士 志賀 正武 (外7名)

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 皮膚をつや消しするためのケア組成物又はメイクアップ組成物における繊維の使用

(57) 【要約】

【課題】 皮膚の肌理をつや消し、滑らか及び／又は均一にするための、及び／又は皮膚の起伏の欠点を隠すための、スキンケア組成物又はメイクアップ組成物の提供。

【解決手段】 スキンケア組成物又はメイクアップ組成物において、繊維、特に1 μ mから10 mmまでの範囲の長さ及び／又は5から150までの範囲の形状係数を有する繊維を使用する。又はスキンケア組成物又はメイクアップ組成物において、これらの組成物が0.1を超えるカバリング指数を有するために十分な量の繊維を使用する。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 スキンケア組成物における、肌理をつや消し、滑らか、及び／又は均一にする剤としての、及び／又は皮膚の起伏の欠点を隠す剤としての、繊維の化粧目的の使用。

【請求項2】 スキンケア組成物における、肌理をつや消し、滑らか、及び／又は均一にするための、及び／又は皮膚の起伏の欠点を隠すための、繊維の化粧目的の使用。

【請求項3】 化粧品エマルションにおける、肌理をつや消し、滑らか、及び／又は均一にする剤としての、及び／又は皮膚の起伏の欠点を隠す剤としての、繊維の化粧目的の使用。

【請求項4】 化粧品エマルションにおける、肌理をつや消し、滑らか、及び／又は均一にするための、及び／又は皮膚の起伏の欠点を隠すための、繊維の化粧目的の使用。

【請求項5】 スキンケア組成物及び／又は皮膚用メイクアップ組成物における、皮膚における微小な起伏、しわ、小じわ及び毛穴又は色の変化をかくすための、繊維の化粧目的の使用。

【請求項6】 スキンケア組成物及び／又は皮膚用メイクアップ組成物における、上記組成物が0.1を超えるカバリング指数を有するために十分な量の繊維の、化粧目的の使用。

【請求項7】 上記繊維が、1 μ mから10mmまでの範囲の長さ(L)を有することを特徴とする、請求項1乃至6のいずれか1項記載の使用。

【請求項8】 上記繊維の断面が、1nmから100 μ mまでの範囲の直径(D)を有する円内に含まれる大きさであることを特徴とする、請求項1乃至7のいずれか1項記載の使用。

【請求項9】 上記繊維が、5から150までの範囲の形状係数(L/D)を有することを特徴とする、請求項1乃至8のいずれか1項記載の使用。

【請求項10】 上記繊維が0.15デニールから30デニールまでのヤーンカウントを有することを特徴とする、請求項1乃至9のいずれか1項記載の使用。

【請求項11】 上記繊維が、絹、綿、ウール又は亜麻繊維、特に木材、植物又は藻類から抽出されたセルロース繊維、ポリアミド（ナイロン（登録商標））繊維、変性セルロース繊維、ポリ－p－フェニレンテレフタルアミド繊維、アクリル酸繊維、ポリオレフィン、ガラス、シリカ、アラミド、炭素又はテフロン（登録商標）繊維、不溶性コラーゲン繊維、ポリエステル、塩化ポリビニル、塩化ポリビニリデン、ポリビニルアルコール、ポリアクリロニトリル、キトサン、ポリウレタン又はポリエチレンフタレート繊維、ポリマー混合物から形成された繊維、及び再吸収可能な合成繊維、及びそれらの混合物から選ばれることを特徴とする、請求項1乃至10の

いずれか1項記載の使用。

【請求項12】 上記繊維が被覆されたものであることを特徴とする請求項1乃至11のいずれか1項記載の使用。

【請求項13】 上記繊維がポリアミド繊維、ポリ－p－フェニレンテレフタルアミド繊維及び綿繊維、及びそれらの混合物から選ばれるものであることを特徴とする請求項1乃至12のいずれか1項記載の使用。

【請求項14】 上記繊維が、組成物の全重量に対して0.1重量%から30重量%までの量で存在することを特徴とする請求項1乃至13のいずれか1項記載の使用。

【請求項15】 組成物が生理的に許容される媒体を含むことを特徴とする請求項1乃至14のいずれか1項記載の使用。

【請求項16】 組成物がメイクアップ製品を構成することを特徴とする請求項3乃至15のいずれか1項記載の使用。

【請求項17】 組成物が成型製品であることを特徴とする請求項3乃至15のいずれか1項記載の使用。

【請求項18】 肌理をつや消し、滑らか、及び／又は均一にするための、及び／又は皮膚における微小な起伏、しわ、小じわ及び毛穴又は色の変化を隠すための、化粧処置方法であって、生理的に許容される媒体中に繊維を含む化粧スキンケア組成物の、皮膚への適用を含む方法。

【請求項19】 皮膚における微小な起伏、しわ、小じわ及び毛穴の、メイクアップ方法であって、生理的に許容される媒体中に繊維を含む化粧組成物の、皮膚への適用からなる方法。

【請求項20】 組成物がエマルションであることを特徴とする請求項18又は19の方法。

【請求項21】 繊維と、脂性皮膚を処置するための少なくとも1つの活性剤とを含む化粧組成物。

【請求項22】 上記活性剤が、 β -ラクタム誘導体、キノロン誘導体、シプロフロキサシン、ノルフロキサシン、テトラサイクリン及びその塩、エリスロマイシン及びその塩、アミカシン及びその塩、2, 4, 4'-トリクロロ-2'-ヒドロキシジフェニルエーテル（又はトリクロサン）、3, 4, 4'-トリクロロカルバニリド（又はトリクロカルバン）、フェノキシプロパノール、フェノキシイソプロパノール、ドキシサイクリン及びその塩、カプレオマイシン及びその塩、クロルヘキシジン及びその塩、クロルテトラサイクリン及びその塩、オキシテトラサイクリン及びその塩、クリンダマイシン及びその塩、エタンブトール及びその塩、ヘキサミジンイセチオネート、メトロニダゾール及びその塩、ペンタミジン及びその塩、ゲンタマイシン及びその塩、カナマイシン及びその塩、リネオマイシン及びその塩、メタサイクリン及びその塩、メテナミン及びその塩、ミノサイクリン及びその塩、

ン及びその塩、ネオマイシン及びその塩、ネチルマイシン及びその塩、パロモマイシン及びその塩、ストレプトマイシン及びその塩、トブラマイシン及びその塩、ミコナゾール及びその塩、アマンファジン塩、パラークロロメターキシレノール、ナイスタチン、トルナフテート、3-ヒドロキシ安息香酸及びその塩、4-ヒドロキシ安息香酸及びその塩、2-ヒドロキシ酪酸及びその塩、2-ヒドロキシ吉草酸及びその塩、2-ヒドロキシヘキサ酸及びその塩、フィチン酸及びその塩、N-アセチル-L-システイン酸及びその塩、リボ酸及びその塩、アゼライン酸及びその塩、アラキドン酸及びその塩、イブプロフェン、ナプロキセン、ヒドロコルチゾン、アセトアミノフェン、レゾルシノール、オクトピロックス、塩酸リドカイン、クロトリマゾール、10-ヒドロキシ-2-デカン酸及びその塩、亜鉛塩、ツツジ科植物からの抽出物、硫黄含量の高い植物からの抽出物、及びその混合物から選ばれることを特徴とする、請求項21記載の化粧処置方法。

【請求項23】 活性剤(類)の量が、組成物全重量に対して0.0001重量%から30重量%までの範囲であり、好ましくは0.001重量%から20重量%までの範囲であることを特徴とする請求項21又は22記載の組成物。

【請求項24】 上記繊維が、1 μ mから10mmまでの範囲の長さ(L)を有することを特徴とする、請求項21乃至23のいずれか1項記載の組成物。

【請求項25】 上記繊維の断面が、1nmから100 μ mまでの範囲の直径(D)を有する円内に含まれる大きさであることを特徴とする、請求項21乃至24のいずれか1項記載の組成物。

【請求項26】 上記繊維が、5から150の範囲の形状係数(L/D)を有することを特徴とする、請求項21乃至25のいずれか1項記載の組成物。

【請求項27】 上記繊維が、絹、綿、ウール又は亜麻繊維、特に木材、植物又は藻類から抽出されたセルロース繊維、ポリアミド(ナイロン(登録商標))繊維、変性セルロース繊維、ポリ-p-フェニレンテレフタルアミド繊維、アクリル酸繊維、ポリオレフィン、ガラス、シリカ、アラミド、炭素又はテフロン(登録商標)繊維、不溶性コラーゲン繊維、ポリエステル、塩化ポリビニル、塩化ポリビニリデン、ポリビニルアルコール、ポリアクリロニトリル、キトサン、ポリウレタン又はポリエチレンフタレート繊維、ポリマー混合物から形成された繊維、及び再吸収可能な合成繊維、及びそれらの混合物から選ばれることを特徴とする、請求項21乃至26のいずれか1項記載の組成物。

【請求項28】 上記繊維がポリアミド繊維、ポリ-p-フェニレンテレフタルアミド繊維及び綿繊維、及びそれらの混合物から選ばれるものであることを特徴とする請求項21乃至27のいずれか1項記載の組成物。

【請求項29】 上記繊維が、組成物の全重量に対して0.1重量%から30重量%までの量で存在することを特徴とする請求項21乃至28のいずれか1項記載の組成物。

【請求項30】 エマルションの形態であることを特徴とする請求項21乃至29のいずれか1項記載の組成物。

【請求項31】 皮膚の脂っばい外観を制御するための、及び/又は脂性肌を処置するための、請求項21乃至30のいずれか1項記載の組成物の化粧目的の使用。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、皮膚の肌理をつや消し、滑らか及び/又は均一にするための、スキンケア組成物又はメイクアップ組成物における繊維の化粧目的の使用に関する。本発明はまた、繊維を含む化粧組成物の皮膚への適用を含む、皮膚の肌理をつや消し、滑らか及び/又は均一にする、及び/又は皮膚の起伏の欠点を隠すことを助ける、化粧処置方法に関する。

【0002】

【従来の技術】メイクアップは、一日の経過につれてその見た目が崩れていく傾向があるため、つや消し効果を有するスキンケア組成物又はメイクアップ組成物は、過剰の皮脂により生じる光沢の問題を解決するために、そしてメイクアップの長期定着力を改善するために、一般的に使用されている。それらは皮膚につや消しの外観を与え、それは皮膚の表面で光を散乱させる力により生じるものである。それらは、皮膚の微小な起伏、しわ、小じわ及び孔及び色の変化などの欠陥を隠すために使用することができる。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】つや消し効果のある組成物として知られている従来の組成物は、一般的に、非常にわずかな脂肪物質を含むか、あるいは脂肪物質を含まない。それらは一般的に皮脂と、皮膚によって吸収されない組成物の余分な油分を吸収する粉末からなる。天然又は合成由来のつや消し効果粉末の中で、特に、タルク、デンプン、マイカ、シリカ、ナイロン粉末、ポリエチレン粉末、ポリベーターアラニン及びポリ(メチルメタクリレート)などのフィラーが挙げられる。このタイプのフィラーは、粉っばい外観あるいは漆喰のような外観を与え皮膚に自然な外観を与えないという欠点、及び皮膚の欠陥を目立たせるという欠点を有する。さらに、それらを組成物は一般的に、長期間乾燥効果を有し、広げることが困難である。それらのつや消し効果は長い間持続するものではない。

【0004】 文献EP-A-0502769は、半透明層と、メイクアップした皮膚に自然な外観を与えるつや消し効果組成物を開示している。それらは脂肪バインダー中の、高い比フィラー/バインダー重量比を有する、球状の粒子

の分散物である。つや消し効果を有するために、高い比率の粉末が必要であり、その結果これらの組成物は乾燥しきる(drying-out)という問題を起こす。さらに、それらは、高い含量の粉末のために、広げる間にけばを形成し、皮膚に漂白効果を与えるという傾向を有する。

【0005】

【課題を解決するための手段】出願人は、驚くべきことに、繊維が、特にポリアミド繊維が、特筆すべきつや消し効果剤を構成できることを見出した。これらの繊維を含む化粧品組成物は、肌理をつや消し、滑らか及び／又は均一にすることができ、同時に適用するために柔軟で、広げるのが容易で、べたつかず、皮膚を乾燥させることがない。それらは皮膚に良好なカバリング力を有し、特に、皮膚における微小な起伏、しわ、小じわ及び毛穴を隠すために、用いることができ、同時に皮膚に自然な外観を与える。

【0006】 短いポリアミド繊維を含む化粧品組成物が知られており、例えば文献JP07-196440では、これらの繊維がその組成物にビロードのような感触と良好な化粧定着性を与える。しかしながら、いずれの文献にも、繊維がつや消し効果及び／又はカバリング力を与えられること、又はそれらが皮膚の欠陥(しわ、小じわ又は毛穴)を隠すことができる(カバリング力)ことは記載されていない。

【0007】 したがって、本発明の1つの主題は、スキンケア組成物における、肌理をつや消し、滑らか及び／又は均一にする剤としての、及び／又は皮膚の起伏の欠点を隠す剤としての、繊維の化粧目的の使用である。

【0008】 本発明の別の主題は、スキンケア組成物における、肌理をつや消し、滑らか及び／又は均一にするための、及び／又は皮膚の起伏の欠点を隠すための、繊維の化粧目的の使用である。

【0009】 本発明の主題はまた、化粧エマルションにおける、肌理をつや消し、滑らか及び／又は均一にする剤としての、及び／又は皮膚の起伏の欠点を隠す剤としての、繊維の化粧目的の使用であり、化粧エマルションにおける、肌理をつや消し、滑らか及び／又は均一にするための、及び／又は皮膚の起伏の欠点を隠すための、繊維の化粧目的の使用である。

【0010】 本発明の別の主題は、皮膚における微小な起伏、しわ、小じわ及び毛穴又は色の变化をかくすための、スキンケア組成物及び／又は皮膚のためのメイクアップ組成物における繊維の化粧目的の使用である。

【0011】 本発明の別の主題は、肌理をつや消し、滑らか、及び／又は均一にするための、及び／又は皮膚における微小な起伏、しわ、小じわ及び毛穴又は色の变化をかくすための、化粧処置方法であって、生理的に許容される媒体中に繊維を含む化粧スキンケア組成物の皮膚への適用を含む方法でもある。

【0012】 本発明はまた、皮膚における微小な起伏、しわ、小じわ及び毛穴の、メイクアップ方法であって、生理的に許容される媒体中に繊維を含む化粧組成物の皮膚への適用を含む方法に関する。

【0013】 本発明に用いられる組成物は、0.1を超える、好ましくは0.13を超える、カバリング指数を有するために十分な量の繊維を含む。カバリング指数は、下記のカバリング試験でのYb/Yw比(黒の明瞭度/白の明瞭度)として定義される。

【0014】 本発明の別の主題は、上記組成物が0.1を超えるカバリング指数を有するために十分な量の繊維の、スキンケア組成物及び／又は皮膚のためのメイクアップ組成物における化粧目的の使用である。

【0015】

【発明の実施の形態】繊維を含む化粧品組成物は、生理的に許容される媒体を含む。「生理的に許容される媒体」という表現は、ここでは、皮膚、唇、頭皮、睫毛、眼、爪、及び／又は髪に適合する媒体を意味する。

【0016】 本発明の組成物に用いることができる繊維は、親水性繊維でも疎水性繊維でもよく、天然又は合成、鉱物又は有機由来のもので良い。

【0017】 これらの繊維は、短くても長くてもよく、個別又はまとめられたものでもよく、例えば編んだものでも良い。それらはいかなる形状又は形態でもよく、特に、意図される特定の適用に応じて円形又は多角形(四角形、六角形又は八角形)の断面を有していても良い。特に、それらの末端は、傷つけないように丸められているか及び／又は磨かれているものである。

【0018】 特に繊維は、1 μ m(0.001mm)から10mm、好ましくは0.1mmから5mm、より好ましくは0.1mmから1.5mmまでの範囲の長さ(L)を有していても良い。それらの断面は、直径1nm(0.001 μ m)から100 μ m、好ましくは1nm(0.001 μ m)から50 μ m、より好ましくは5 μ mから40 μ mまでの範囲の直径(D)の円内に含まれる大きさであることができる。

【0019】 好ましくは、本発明で用いられる繊維は、3.5から2500の範囲、好ましくは5から500、より好ましくは5から150までの範囲の形状係数、すなわちL/D(長さ/径)比を有する。

【0020】 繊維のヤーンカウントは、しばしばデニール又はdecitexで与えられる。デニールは、ヤーンの9kmについてのグラム重量である。本発明に用いられる繊維は、好ましくは、0.15デニールから30デニール、好ましくは0.18デニールから18デニールまでの範囲のヤーンカウントを有する。

【0021】 形状係数、ヤーンカウ

ト及び繊維の形態は、繊維を定義するために重要な3つの要素である。

【0022】 繊維は、織物の製造に用いられるもの、特に、絹、綿、ウール又は亜麻繊維、特に木材、植物又は藻類から抽出されたセルロース繊維、ポリアミド（ナイロン（登録商標））繊維、修飾セルロース（レイヨン又はビスコース又はアセテート、特にレイヨンアセテート）繊維、ポリ-p-フェニレンテレフタルアミド繊維、特にKevlar（登録商標）繊維、アクリル酸繊維、特にポリメチルメタクリレート又はポリ（2-ヒドロキシエチルメタクリレート）繊維、ポリオレフィン繊維、特にポリエチレン又はポリプロピレン繊維、ガラス、シリカ又はアラミド繊維、炭素繊維、特にグラファイトの形状、テフロン（登録商標）繊維、不溶性カラーゲン繊維、ポリエステル、塩化ポリビニル、塩化ポリビニリデン、ポリビニルアルコール、ポリアクリロニトリル、キトサン、ポリウレタン又はポリエチレンフタレート繊維、上記のポリマー混合物から形成された繊維、例えばポリアミド／ポリエステル繊維とすることができる。

【0023】 手術に用いられる再吸収可能な合成繊維も用いることができ、例えばグリコール酸から及びカプロラクトンから調製された繊維（Johnson & Johnson社からのMonocryl）；乳酸及びグリコール酸のコポリマーなどの再吸収可能な合成繊維（Johnson & Johnson社からのVicryl）；テレフタル酸ポリエステル繊維（Johnson & Johnson社からのEthibond）及びステンレス鋼ヤーン（Johnson & Johnson社からのAcier）を用いることができる。

【0024】 さらに、繊維は表面処理されていても、されていなくてもよく、被覆されていても、されていなくてもよい。本発明に用いることができる被覆された繊維としては、帯電防止効果のために硫化銅で被覆されたポリアミド繊維（例えばRhodia社からのR-STAT）又は繊維の特定の組織を可能にする他のポリマー（特異的表面処理）又は着色／ホログラム効果を誘導する表面処理（例えばSildorex社からのLurex繊維）が挙げられる。

【0025】 数種類の繊維の混合物を用いることができる。

【0026】 それらの特性に応じて、本発明に用いられる繊維は、水性媒体、油性媒体、又は粉末へ導入することができる。

【0027】 本発明の組成物に用いられる繊維は、好ましくは、ポリアミド繊維、ポリ-p-フェニレンテレフタルアミド繊維及び綿繊維、及びそれらの混合物から選ばれる。それらの長さは0.1から10mm、好ましくは0.1から1mmまでの範囲とすることができ、それらの平均径は5μmから50μmとすることができ、形状係数は好ましくは5から150とす

ることができる。

【0028】 特に、15μmから20μmまでの平均径、約0.9dtexのヤーンカウント（0.81デニール）、0.3mmから1.5mmまでの長さを有する、Etablissements P. Bonteにより、Pol yamide 0.9 Dtex 0.3mmの名で市販されているポリアミド繊維を用いることができる。

【0029】 12μmの平均径、約1.5mmの長さを有するポリ-p-フェニレンテレフタルアミド繊維も用いることができ、例えばDu Pont fibres社によりKevlar Flocの名で市販されているものである。これらのポリアミド繊維は好ましくは、油性媒体中に導入され、又は粉末中に乾燥経路により導入される。

【0030】 20μmの平均径、0.3mmの長さ、15の形状係数を有する綿繊維も使用することができ、例えば、Filature de Lomme社により、Textiles des dunnes社により、又はVelifil社により市販されているものである。

【0031】 繊維は、本発明の組成物中に、組成物の全重量に対して0.1重量%から30重量%、好ましくは1重量%から25重量%、より好ましくは5重量%から25重量%までの量で存在することができる。用いられる繊維の量は、用いられる繊維の性質と断面形状に依存する。例えば、ポリアミド繊維について、少なくとも5%繊維の量が特に、つや消し効果及び皮膚の欠点の関して満足すべき結果を与える。例えば、マイクロ繊維について、1%の量がすでによい結果を与える。

【0032】 カバリング指数は、組成物のカバリング力を特徴づけることができる。カバリング指数を測定するために、Byk-Gardener Penopac 1Aコントラストプレート（140×254mm）上に、50／100／150／300ミクロン4面マルチプルアプリケーションを用いて、150μmの厚さに、組成物を塗布することにより、コントラストカードを調製する。こうして得られたフィルムを約24時間放置して乾燥させる。

【0033】 Minolta CR 200カロリメーターを特別の白い較正プレート（Y=92；x=0.3138；y=0.3193）を用いて較正する。三色座標のICI（International Commission on Illumination）図は、色度(chromaticity)、すなわち明度(shade)と彩度(saturation)の組み合わせを定義する平面座標x及びy、又は明瞭度(clarity)を定義する第3座標Yで、すべての色を特徴づけることを可能にする。装置は、各測定で3目盛り(reading)を取るようにプログラムされ、自動的に平均を計算する。コントラストカード（黒／白）の各部で2目盛りを取り、Yb（Y黒）とYw（Y白）の値を測定する。

【0034】 カバリング指数は、 Yb/Yw 比に対応する。この比が1に近いほど、カバリング力が高い。1のカバリング指数では、カバリングは完全であり、すなわち白い効果が皮膚で得られ、つや消し効果の自然な外観のためには望ましくない。本発明による満足すべきカバリングと良好なつや消し効果を有するために、カバリング指数は0.1を超えるべきであり、好ましくは0.1から0.5、より好ましくは0.13から0.4までであるべきである。

【0035】 繊維を含む本発明の組成物は、局所適用のために従来用いられているいかなる形状で提供されてもよく、特に無水組成物、油性ゲル、水性又は水性アルコール溶液、ローション又は漿液などの分散物、水性ゲル、液体又は乳液などの半液体の粘稠性のエマルジョン、脂肪相を液体相に分散して得られるもの(O/W)、又はその反対(W/O)、又はクリーム又はゲルなどの柔らかい、半固体又は固体の粘稠性の懸濁物又はエマルジョン、又はマルチプルエマルジョン(W/O/W又はO/W/Oエマルジョン)、マイクロエマルジョン、マイクロカプセル、マイクロ粒子又はイオン及び/又は非イオンタイプの小胞分散物の形状である。これらの組成物は、通常の方法で調製される。

【0036】 本発明の1つの特定の実施態様によれば、繊維を含む組成物は、油中水型(W/O)又は水中油型(O/W)エマルジョンである。エマルジョンの油相の比率は、組成物全重量に対して、5重量%から80重量%、好ましくは5重量%から50重量%までの範囲とすることができる。エマルジョン形状の組成物に用いられる油、乳化剤又は共乳化剤は、従来化粧品又は皮膚科で用いられるものから選ばれる。乳化剤及び共乳化剤は、一般的に、組成物中に、全組成物重量に対して0.3重量%から30重量%、好ましくは0.5重量%から20重量%までの範囲の比率で存在する。エマルジョンは液体ビシクルを含むことができる。

【0037】 本発明で用いられることができる油としては、鉱物油(液体ワセリン)、植物油(液体分画又はカリテバター、ひまわり油)、動物油(パーヒドロスクアレン)、合成油(水素添加ポリイソブテン)、非揮発性又は揮発性シリコーン油(シクロペンタシロキサンなどのシクロメチコン)及びフッ化油(パーフルオロポリエーテル)が挙げられる。脂肪物質として、脂肪アルコール、脂肪酸、ミクロクリスタリンワックス、ホホバワックス、ラノリンワックス、蜜蝋などのワックスを用いることも可能である。エマルジョンの油相はシリコーンゴム(ジメチコノール)などのゴム、樹脂及び特にトリフルオロメチル(C1-4)アルキルジメチコンなどのシリコーン樹脂、Shin-Etsu社により“KSG”の名で、Dow Corning社により“Trefil”の名で、又はGrand Industries社により“Gransil”の名で、市販されている製品などのシリコーンエラスト

マーを含むこともできる。

【0038】 エマルジョンは一般的に、単独で又は混合物として、両性、アニオン性、カチオン性、非イオン性乳化剤から選ばれる、少なくとも1つの乳化剤を含む。乳化剤は、得られるエマルジョンに応じて適当に選ばれる(W/O又はO/Wエマルジョン)。

【0039】 W/Oエマルジョンとして、乳化剤の例としては、例えば、シクロメチコンとジメチコンコポリオールの混合物などのジメチコンコポリオール、Dow Corning社により“DC 5225 C”名で市販されているもの、及びDow Corning社により“Dow Corning 5200 Formulation Aid”の名で市販されているラウリルメチコンコポリオールなどのアルキルジメチコンコポリオール、及びGoldschmidtという会社によりAbil EM 90(登録商標)の名で市販されているセチルジメチコンコポリオールが挙げられる。

【0040】 周知のように、本発明の化粧品又は皮膚科組成物は、化粧品、製薬、皮膚科の分野で一般的なアジュバントを含むこともでき、例えば親水性又は親油性のゲル化剤、親水性又は親油性の活性剤、防腐剤、抗酸化剤、溶剤、香料、フィラー、遮蔽剤、殺菌剤、脱臭剤、顔料及び塩を含むことができる。これらの種々のアジュバントの量は、考慮される分野で従来から用いられている量であり、例えば、組成物全重量に対して0.01%から10%までである。それらの性質に応じて、これらのアジュバントは脂肪相へ、水性相へ、及び/又は脂質球状体へ、導入されることができる。これらのアジュバント及びそれらの濃度は、それらが発明の組成物の所望の特性を変えないようにするべきである。

【0041】 本発明に用いられる溶媒として、1から4までの炭素原子を含む低級アルコール、特にエタノール、イソプロパノール及びプロピレングリコールを挙げることができる。

【0042】 親油性ゲル化剤としては、ヘクトライト及びその誘導体、例えばBentoneの名の市販品、などの変性粘土を挙げることができる。

【0043】 本発明の組成物に用いられるフィラーとしては、例えば、顔料以外に、シリカ粉末；タルク；ポリアミド粒子、特にAtochem社によりOrgasolの名で市販されているもの；ポリエチレン粉末；アクリル酸コポリマーベースのミクロスフェア、例えばエチレングリコールジメタクリレート/ラウリルメタクリレートからなるもの、Dow Corning社によりPolytrapの名で市販されているもの；中空ミクロスフェアなどの発泡粉末、特にKemanord Plast社よりExpancelの名で、Matsumoto社によりMicropearl F 80 EDの名で市販されているミクロスフェア；コーンスターチ、小麦デンプン又はコメデンプンなどの天然有機材料の粉末、これは架橋

されていてもされていなくてもよく、例えば、National Starch社よりDry-Floの名で市販されている、無水コハク酸オクチルと架橋されているデンプン粉末；Toshiba Silicone社よりTospearlの名で市販されているシリコン樹脂マイクロビーズ；及びそれらの混合物が挙げられる。これらのフィラーは、組成物の全重量に対して、0から40重量%、好ましくは1重量%から10重量%までの範囲で存在することができる。

【0044】 本発明で用いられる組成物で得られるつや消し効果のために、この組成物は特に脂性肌の処置に用いることができ、特に皮膚の油っぽい外観を制御するために用いることができる。この場合、有利には、脂性肌を処置するための少なくとも1つの活性剤を含む。この活性剤は、特に、 β -ラクタム誘導体、キノロン誘導体、シプロフロキサシン、ノルフロキサシン、テトラサイクリン及びその塩、エリスロマイシン及びその塩、アミカシン及びその塩、2, 4, 4'-トリクロロ-2'-ヒドロキシジフェニルエーテル（又はトリクロサン）、3, 4, 4'-トリクロロカルバニリド（又はトリクロカルバン）、フェノキシプロパノール、フェノキシイソプロパノール、ドキシサイクリン及びその塩、カブレオマイシン及びその塩、クロルヘキシジン及びその塩、クロルテトラサイクリン及びその塩、オキシテトラサイクリン及びその塩、クリンダマイシン及びその塩、エタンブトール及びその塩、ヘキサミジンイセチオネート、メトロニダゾール及びその塩、ペンタミジン及びその塩、ゲンタマイシン及びその塩、カナマイシン及びその塩、リネオマイシン及びその塩、メタサイクリン及びその塩、メテナアミン及びその塩、ミノサイクリン及びその塩、ネオマイシン及びその塩、ネチルミシン及びその塩、パロモマイシン及びその塩、ストレプトマイシン及びその塩、トブラマイシン及びその塩、ミコナゾール及びその塩、アマンファジン塩、パラクロロメターキシレノール、ナイスタチン、トルナフテ

ート、3-ヒドロキシ安息香酸及びその塩、4-ヒドロキシ安息香酸及びその塩、2-ヒドロキシ酪酸及びその塩、2-ヒドロキシ吉草酸及びその塩、2-ヒドロキシヘキサン酸及びその塩、フィチン酸及びその塩、N-アセチル-L-システイン酸及びその塩、リボ酸及びその塩、アゼライン酸及びその塩、アラキドン酸及びその塩、イブプロフェン、ナプロキセン、ヒドロコルチゾン、アセトアミノフェン、レゾルシノール、オクトピロックス、塩酸リドカイン、クロトリマゾール、10-ヒドロキシ-2-デカン酸及びその塩、グルコン酸亜鉛などの亜鉛塩、ヒメコウジ（又は*Gaultheria procumbens*）の抽出物などのツツジ科植物からの抽出物、white dead nettle (*Lamium album*) などの硫黄含量の高い植物からの抽出物、及びその混合物から選ばれることができる。

【0045】 これ又はこれらの活性剤は組成物全重量に対して、例えば、0.0001重量%から30重量%、好ましくは0.001重量%から20重量%、より好ましくは0.01重量%から15重量%までの範囲で存在することができる。

【0046】 こうして、本発明の主題は、繊維と、特に前記のものから選ばれる脂性肌を処置するための少なくとも1つの活性剤を含む化粧品組成物、及びそのような組成物の、皮膚の脂っぽい外観を制御する及び／又は脂性肌を処置するための化粧目的の使用でもある。

【0047】 以下の実施例により本発明を説明するが、これらはそれを制限するものではない。場合に応じて、命名は、化学名又はCTFA (International Cosmetic Ingredient Dictionary and Handbook) 名であり、別記しないかぎり量は重量パーセントである。

【0048】

【実施例】

実施例1：W/Oエマルション

- | | |
|--|------|
| (1) シクロメチコン/ジステアルジモニウム (disteardimonium)・ヘクトライト/アルコール (80/10/5混合物, Elementis SpecialtiesによりBento ne gel VS-5Vの名で市販されている) | 3% |
| (2) 塩化ナトリウム | 0.7% |
| (3) トリフルオロメチル (C1-4) アルキルジメチコン (Shin Etsuにより市販されているFL-5(X-22-819)) | 4% |
| (4) ナイロン12 (Atochem社により市販されているOrgasol 2002 Extra D N at Cos) | 1.5% |
| (5) ポリアミド繊維 (Societe Paul Bonte社からのPolyamide 0.9 dtex, 0.3mm) | 12% |
| (6) シクロメチコン/ジメチコンコポリオール (Dow Corningにより市販されているDC-5225 C) | 10% |
| (7) ジメチコン/ジメチコノール (Dow Corningにより市販されているDC 1503) | 2.5% |
| (8) シクロペンタシロキサン | 7% |

(9) 防腐剤	1%
(10) グリセリン	5%
(11) エタノール	5%
(12) 水	100%とする量

【0049】 方法：成分(3)、(7)、(1)、シクロペンタシロキサン(8)の半分及び繊維(5)をスパチュラで混合し、混合物を3ロールミルで2回処理した。これとは別に、DC-5225Cをシクロペンタシロキサンの残りの半分と混合し、得られた混合物を前記で得られた混合物と混合し、最終的な混合物を均質化して油相を得た。

【0050】 これとは別に、水性相の成分：水、グリセリン、エタノール、塩、防腐剤を混合して、水性相を調製した。水性相を油相に少しずつ攪拌

しながら添加してエマルジョンを調製した。こうして得られた組成物は、長期間持続するつや消し効果特性を有し、適用した後、皮膚に自然な外観を与えた。

【0051】 カバリング指数の測定法
実施例1の組成物、及び繊維を含まない(プラセボ)、又は繊維の量が少ない類似組成物のカバリング指数を測定した：

1) 組成物

【0052】

【表1】

組成物	プラセボ	6%の繊維を含む実施例	8%の繊維を含む実施例	10%の繊維を含む実施例	12%の繊維を含む実施例
トリフルオロメチル(C1-4)アルキル-ジメチコン	4.5	4.3	4.2	4.1	4.0
DC1503	2.8	2.7	2.6	2.6	2.5
ペントシゲル VS-5V	3.4	3.2	3.1	3.1	3.0
ナイロン12	1.7	1.6	1.6	1.5	1.5
ポリリグニト繊維		6.0	8.0	10.0	12.0
シクロペンタシロキサン	8.0	7.5	7.3	7.2	7.0
DC-5225C	11.4	10.7	10.5	10.2	10.0

【0053】

【表2】

組成物	プラセボ	6%の繊維を含む実施例	8%の繊維を含む実施例	10%の繊維を含む実施例	12%の繊維を含む実施例
塩化ナトリウム	0.8	0.7	0.7	0.7	0.7
グリセリン	5.7	5.3	5.2	5.1	5.0
エタノール	5.7	5.3	5.2	5.1	5.0
防腐剤	1.1	1.1	1.0	1.0	1.0
水	100.0とする量	100.0とする量	100.0とする量	100.0とする量	100.0とする量

【0054】

2) 結果

【表3】

得られた値	プラセボ	6%の繊維を含む実施例	8%の繊維を含む実施例	10%の繊維を含む実施例	12%の繊維を含む実施例
平均 Y 黒	4.2600	10.9500	17.2800	24.0000	27.1600
平均 x 黒	0.3100	0.2940	0.2962	0.2987	0.3001
平均 y 黒	0.3170	0.3019	0.3040	0.3062	0.3073
平均 Y 白	82.4700	82.4800	82.2400	82.4100	82.4700
平均 x 白	0.3166	0.3168	0.3169	0.3168	0.3167
平均 y 白	0.3222	0.3224	0.3225	0.3223	0.3222
Y 黒/Y 白	0.0517	0.1328	0.2101	0.2912	0.3293

【0055】 前記表の結果から、繊維を含む組成物についてのみ、カバリング指数は0.1を超え、調製物の繊維の量が増加するにつれてカバリング

指数も増加することがわかる。

【0056】

実施例2：W/Oエマルジョン

(1) ミクロクリスタリンワックス	1.41%
(2) 水素添加ポリイソブテン	5.44%
(3) プロピルパラベン(防腐剤)	0.02%
(4) ポリアミノプロピルビグアナイド(防腐剤)	1%
(5) 硫酸マグネシウム	0.7%
(6) シリカ	0.64%
(7) ポリアミド繊維(Societe Paul Bonte社からのPolyamide 0.9 dtex, 0.3m m)	8.2%
(8) エチレン/アクリル酸コポリマー	0.7%
(9) アクリル酸コポリマー	0.05%
(10) シクロペンタシロキサン	20%
(11) シクロメチコン/ジメチコンコポリオール(Dow Corningにより 市販されているDC-5225 C)	10%
(12) ポリメチルセスキノキサン	0.5%
(13) ジメチコン/ビニルジメチコン架橋ポリマー/ジメチコン(Shin -Etsuにより市販されているKSG 16)	3%
(14) グリセリン	5%
(15) 水	100%とする量

【0057】 方法：成分(1)、(2)、(3)、(6)、(8)、(9)、(12)及び(13)を混合した。繊維(7)をそこに添加し、よく混合した。成分(10)及び(11)をついで添加し、得られた油相を均質化した。エマルジョンをMoritzブレンダーで、成分(4)、(5)、(14)及び(15)の混合により得られた水性相を、前記で得られた油相へ添加することにより調製した。

【0058】 得られた組成物は皮膚をつや消しにすることが可能で、欠点(しわ及び小じわ)をカバーすることが可能であった。

【0059】 つや消し効果の試験—本発明の組成物のつや消し効果を測定するために、脂性で光沢のある皮膚を有する17人について、実施例2のつや消し効果組成物と、比較のために繊維を含まない同じ組成物を適用して、15分後、1時間後の皮膚の光沢を評価した。

【0060】 つや消し効果組成物は、各人に、額の半分に、2mg/cm²で、1回適用し、額の残りの半分は対照として、繊維を含まない比較組成物を1回適用した。エリア効果を防ぐためにランダム化を行った。

【0061】 気候条件は以下の通りであった。

温度：22℃

相対湿度：41%

時間T=0(T₀)、T=15分及びT=1時間。メイクアップした皮膚(あるいは対照領域の非処理)の表面の光沢を、公開された特許出願FR-2650890に

実施例3：成型(cast)製品

相A1

開示されている測定装置を用いて、皮膚の表面の光沢の測定を可能にするこの装置に特異的な平行反射と交差反射パラメーターから、測定した。

【0062】 第1段階では、時間Tで、処理領域で測定される平均光沢の変化を以下の式で測定した。

$$\Delta_1 = S_T - S_0 / S_0$$

ここで、S₀はT₀で測定された平均光沢を表し、ここで、S_TはTで測定された平均光沢を表す。

【0063】 第2段階では、時間Tで、対照領域(繊維を含まない組成物で処理された)で測定される平均光沢の変化を以下の式で測定した。

$$\Delta_2 = S'_T - S'_0 / S'_0$$

ここで、S'₀はT₀で測定された平均光沢を表し、ここで、S'_TはTで測定された平均光沢を表す。これらの試験の結果を下記の表で示す。

【0064】

【表4】

時間	15分	1時間
処理領域(実施例2)での平均光沢の変動 Δ_1	-14%	-13%
対照領域(繊維を含まない組成物)での平均光沢の変動 Δ_2	-4%	-4%

これらの結果は、繊維がそれらを含む組成物に、皮膚に対する良好なつや消し効果特性を与えることを示す。

【0065】

—ホホバワックス 5.3%
 —ポリグリセリル—4イソステアレート／セチルジメチコン／コポリオール／ヘキシルラウレート (Goldschmidtにより市販されているAbil WE 09)

2.2%
 —セテアリルオクタノエート／イソプロピルミリステート 3.1%
 —ポリエチレン 0.7%

【0066】

相A2
 —シクロヘキサシロキサン 3.1%

【0067】

相B
 —塩化ナトリウム 0.5%
 —グリセリン 2%
 —防腐剤 1%
 —水 100%とする量

【0068】

相C
 —シクロメチコン／ジステアルジモニウム・ヘクトライト／アルコール (80／10／5混合物、Elementis SpecialtiesによりBentone gel VS-5Vの名で市販されている) 1.1%
 —トリフルオロメチル (C1—4) アルキルジメチコン (Shin Etsuにより市販されているFL-5(X-22-819)) 2.1%
 —ナイロン12 (Atochem社により市販されているOrgasol 2002 Extra D Nat Co s) 1%
 —ポリアミド繊維 (Societe Paul Bonte社からのPolyamide 0.9 dtex,0.3mm) 8%
 —ジメチコン／ジメチコノール (Dow Corningにより市販されているDC 1503) 1.3%

【0069】 方法：相Cを、すべての成分を混合することにより調製し、混合物を3ロールミルで3回処理した。水性相 (B) (塩化ナトリウム＋グリセリン＋水＋防腐剤) を90℃の湯浴に置いた。相A1を、80—85℃でスパチュラで成分の混合物を攪拌することにより、溶解した (完全に液化するまで)。ついで相A2を相A1に添加し、その後混合物を80—85℃の湯浴に置き、継続して攪拌した。

【0070】 相Bを、A1とA2の混合物に、85℃で攪拌しながら添加することにより、エマルジョンを調製した。ついで相Cを、約70—75℃

で約2分間、攪拌を継続しつつ混合しながら添加した。

【0071】 一度エマルジョンを調製し、熱いうちに皿の型に入れ、放置して冷却した。スポンジで適用するコンパクト型製品の形状のケア組成物を得た。

【0072】 組成物を、5人のパネルで試験した。快適な肌理、のびの容易さ、快適なつけ心地、皮膚をソフトにすること、適用の後べとつかないことが見出された。さらに、処理した皮膚を明るく、スムーズに、つや消しする効果が見られた。

【0073】

実施例4：粉末
 —タルク 75.3%
 —ポリアミド繊維 —Polyamide 0.9 dtex,0.3mm (Societe Paul Bonte) 7.5%
 —ナイロン粉末 10%
 —顔料 3%
 —シリコーンバインダー 4%
 —防腐剤 0.2%

【0074】 方法：繊維を除くすべて

の化合物をBaker Perkins機で混合した。シリコーンバ

インダーは、ポリメチル／セチルジメチルシロキサン（Goldschmidt社からのAbil wax 9801）とポリジメチルシロキサン／トリメチルシロキシシリケート樹脂（Dow Corning Fluid 593）とポリジメチルシロキサン10cSt（Dow Corning Fluid 200）の混合物である。繊維を、Hosokawa Alpine millで調製の後、攪拌しながら添加した。

実施例5：口紅

－ラノリンワックス	5%
－マイクロクリスタリンワックス	11%
－変性された蜜蝋	4.5%
－アララオイル	21%
－ごま油	22%
－変性粘土	0.6%
－アセチル化ラノリン	6%
－綿繊維（0.3mm長）	5%
－顔料	9%
－抗酸化剤	0.1%
－ラノリン	100%とする量

【0077】 光沢のある均一な口紅のスティックを得た。24人のパネルに適用したとき、こ

【0075】 得られた組成物を16人の女性のパネルにメイクアップで使用すると、
 一つや消し／サテンの輝き
 ー良好な均一性
 ー矯正効果
 を示した。

【0076】

の口紅のフィルムは、繊維を含まない口紅で得られたフィルムに比べて、グロスの著しい減少を示した。

フロントページの続き

(51)Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	サーチコード（参考）
A 6 1 K 7/027		A 6 1 K 7/027	

Fターム（参考） 4C083 AA071 AA082 AA111 AA112
 AA122 AA162 AB131 AB171
 AB332 AB362 AB442 AC092
 AC102 AC122 AC352 AC422
 AC482 AC692 AC742 AD021
 AD022 AD071 AD072 AD091
 AD092 AD111 AD112 AD152
 AD162 AD172 AD261 AD321
 AD431 AD451 AD512 BB01
 BB11 BB21 BB48 CC02 CC03
 CC05 CC11 CC12 CC13 DD17
 DD21 DD22 DD32 EE12 EE13